

夏ネギ栽培において、育苗時の播種粒数を減らすことでL級以上の割合を高めることができる

福島県農業総合センター 浜地域研究所

1 部門名

野菜—ネギ—夏どり

2 担当者名

三好博子、大越聡、門田敦生、三田村敏正

3 要旨

浜通りのネギ栽培の新たな作型である7～9月収穫の夏ネギ栽培は、他の作型よりL級以上の栽培が容易ではない。L級以上の割合を高めることは、販売単価向上と調製労力を低減させることから有益と考えられる。チェーンポットへの播種粒数を通常の2.0粒から1.5粒（2粒と1粒の交互播種）とすることで収量は低くなったが、L級以上の割合は高くなった。特に「関羽一本太」では販売額がほぼ同等となった（図1、表1）。

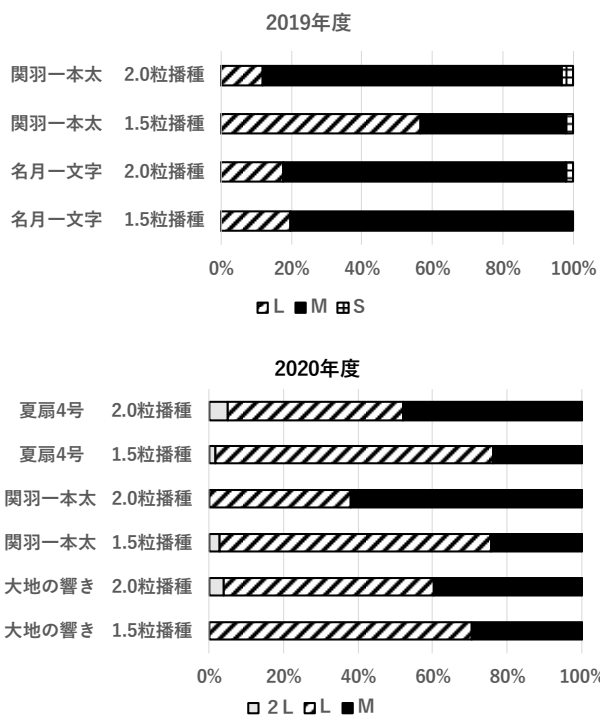


図1 規格別本数割合

<耕種概要>
 ○播種：11月末～12月中旬
 「2.0粒播種」はチェーンポット CP303 に各2粒播種。
 「1.5粒播種」はチェーンポット CP303 に2粒1粒交互に播種※。
 ○定植：2月下旬～3月上旬 ○収穫：7月下旬～8月上旬
 ※2粒1粒交互となっている専用の播種板を使用する。

表1 10aあたり収量と販売額の試算

年度	品種	播種数	収量 (t/10a)	販売額 (千円/10a)
2019年度	関羽一本太	2.0	2.0	609
		1.5	1.8	547
	名月一文字	2.0	3.0	679
1.5		2.3	458	
2020年度	夏扇4号	2.0	3.0	785
		1.5	2.1	608
	関羽一本太	2.0	3.6	904
		1.5	3.3	899
	大地の響き	2.0	2.2	596
		1.5	1.9	530

注) 販売額は、5kg詰箱あたり、2019年度は、L：45本 1,300円、M：60本 1,000円、S：75本 800円とし、2020年度は、2L：35本 2,300円、L：47本 2,200円、M：57本 1,300円として試算(JA.ふくしま未来そうま地区の実績より)

4 成果を得た課題名

- (1) 研究期間 平成28～令和2年度
- (2) 研究課題名 浜通りの震災復興に向けた野菜・花き生産振興支援技術の開発

5 主な参考文献・資料

なし